

「研修会等名称」

ICT 利用による教育改善研究発表会 私立大学情報教育協会

場所：東京理科大学 森戸記念館

期間：2017年8月9日

1. 研修の内容

以下の題目の報告を拝聴した。

- ・環境制約対応型社会・産業形成を題材とした、創造性・主体性を育成する総合教育
- ・PBL 型学習の有効性立証と実施手法
- ・地域社会との連携参加体験型授業を通じたアクティブラーニング
- ・ICT を活用した学習による地域活性化の可能性
- ・解答やレポート作成過程の時間分析の研究
- ・勘定科目コード付与による簿記学習支援ソフトの開発
- ・大人数授業時の学生自発型 LIVE 授業の試行と分析
- ・基礎的な授業技術習得のための示範授業ビデオの制作
- ・ICT の積極的利用と改善
- ・ピアノ演奏見える化ツールを活用した学生の振り返り記述と
教員の指導内容の質的分析
- ・ICT を活用した大人数講義科目の双方向型 TBL 化

教員が企業にアポを取り、受け入れ先を確保し、学生を派遣し、課題発見、課代替する事業構想、評価という流れの中で、共有ホワイトボードなどを用いることで、授業時間外での議論を見える化させることで最終的な報告書をまとめる際に役立っているとのことであった。PBL 型学習については、元 JICA の教員が、履修者を連れて海外の大学と意見交換を行い、さらにその成果について学生自身が DVD にまとめるということがなされており、それが翌年以降の履修者のモチベーションとなっているとのことであった。また、NPO 法人との連携を取り、そこで学生自身が聞き取り調査を実施し、課題を発見し、それに対する対策を提供するということを実施しており、この報告会の様子は DVD に資料としてまとめられているとのことであった。また、インスタグラムを活用した地域活性化の方策についての報告もあった。このように、基本的には、現実社会と大学との交流から現実の課題にアプローチするという PBL 型の学習が多く報告され、ICT の活用に関しては、映像資料として残す方法が多いことがわかった。

これらの PBL 型の授業は、少人数で実施されているのに対して、大人数の授業では PBL 型の授業の報告はなく、ライブ感および双方向性を出す工夫として、スマホやタブレットを活用している実践が報告された。

一方、採点用にプログラム開発している実践も報告された。簿記に関しては、エクセルを使った学習支援を実施している実践が報告された。

他方、映像を使った授業方法も紹介されたが、反転授業としての導入までは困難な状況が示された。

2. 研修の成果

理念としてのPBLについて理解を深めることができた。また、実践したことのないICT活用方法も学ぶことができた。どの報告も成功事例というわけではなく、試行錯誤しているということがわかったことは、自身の授業でも試行錯誤し続けるしかないとの覚悟を深める機会となった。また、ICTの活用によって、印刷物の減少は見られたが、教員の労働時間の負担軽減にはつながらず、益々多忙を極める現状を理解した。

3. 授業への研修成果の反映状況

PBLを18年カリキュラムから新設される「ソーシャルデザイン」という授業で取り入れるため、連携先の発掘等、研究および授業準備を進める。映像による実践の記録については、動画撮影を実施するだけでなく、記録を保存することで、次年度授業の改善や履修希望者の理解のためにも取り入れる準備を進める。

反転授業に関しては、簿記関連の授業での導入を長年考えてきたが、今回の報告では想定ほど上手くいっている事例が見られず、全面的な導入は見送った方がよさそうである。しかし、反転授業のメリットが得られる分野であると考えられることから、今後もこの方向性について模索していきたい。